

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

(ユニット名 : 第2ぶどう苑)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「障がいがあってもその地域の一員として生活することができること」を独自の理念として運営を行っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	「私たちは家族です」を心に留めながら管理者と職員が会議等で理念について確認している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地区のお祭や、小中学・保育園等、積極的に交流を行っており、敬老会等家族にも声をかけ参加を促している。また、近隣との付き合いも年々深まっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方から野菜をもらったり、苑の周りの草を刈ってもらったりと、気楽に付き合えるような関係になっている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	祭に参加し、一緒に山車を引くなど、地域の一員として楽しみながら行事に参加している。近くを通る住民は声を掛けてくれるし、利用者はそれに答えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所では認知症の理解を深めるため、定期的に家族介護教室を開き、地域の住民にチラシを配り参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の内容について職員に話し、改善に努めている。(各自分担して自己評価に取り組み、話し合いを行っている。)		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、ホームの活動内容などを報告し、各委員から出される意見をサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの基準について、担当者と連絡を取り合ったり、地域ケア会議に出席したりして連携を取っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や、青年後継人制度について学ぶ機会はあるが、現在施設では対象者がいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は高齢者虐待防止関連法について学び、施設内でそのようなことのないよう、常に、発生防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、家族に十分な説明をして、理解と納得をしていただけるよう、努めている。利用者については、施設での生活が不安無く過ごせるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等のポストを玄関に設置している。家族の訪問時、意見や要望等の対応を心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月送付する請求書に居室担当者から手紙を入れ、ホームでの暮らしぶりや、健康状態、行事の写真等を報告している。金銭管理については面会時に確認していただき、印をもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはその都度意見や不満、、苦情を気軽に話せるよう、雰囲気作りに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に主任会議、スタッフ会議を設け、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に対応するよう、必要な職員は調整して確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に配慮し、異動は最小限にし、異動の際は、声掛け等で早く、なじみの関係ができるよう心がけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、関係者や職員に定期的に内外の研修に参加させている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会を定期的に持ち、業務に反映している。 ○グループホーム協会への参加 ○花北ブロック会議への参加	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は定期的な親睦会や、面談等を通じ、職員のストレス軽減に取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当、各委員会など個人の意見を出しやすいように役割を持たせ、働きやすい環境に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査をする際、家族からだけではなく、本人からも要望や不安なことを十分聴き、気持ちを確認している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの間、何度も連絡を取り合い、求めていることを良く聴き、不安を取り除く努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの相談は、入所に関してが多く、空きがない場合には他の施設の紹介、また、デイサービスや訪問介護利用等を薦めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本年4月より、小規模多機能施設を開設したことにより、グループホーム入所申し込みの方であるが、泊まることに馴染めないため、現在、通所と訪問サービスを利用させていただきながら、徐々に宿泊に切り替えたいと思っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特に若い職員は、高齢の利用者より教わることが多い。利用者と職員は、時には友人感覚であったり、孫のような存在であったりする。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑された際には、利用者を挟み、談笑の時間を設けている。家族の悩みには家族の立場になって、話を聞くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時に利用者の生活を聞いて、家族の中でどのような位置にあったのかの把握に努め、その後の支援に活かしている。	○	家族の中には用事だけを済ませて帰る方もいるが、施設の中で利用者がどのように暮らしているのか見てほしい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町に出ること、地域に出ることで知人に声を掛けてもらえる。床屋さんはいつも利用していたところに送迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	とても気の合う利用者、まったく孤立している利用者様々であるが、職員が仲を取り持つようにしている。また、施設の内外で車イスを押してくれたりする姿が見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院のため契約が切れた利用者を、職員、利用者で見舞いに行く。以前入所された利用者で自宅に帰られた方が、時々顔を見せてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々一緒に暮らしていく中で、利用者の好きなこと、嫌いなこと、得意、不得意を見極め、ここの暮らしに結びつける努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込みの際、家族、ケアマネージャー、病院のケースワーカーより、生活の様子を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	仕事好きな利用者もあり、じっと座っているだけの人もある。いつも手伝ってくれる人でもその日の気分で「今は疲れているから」と断られる日もあり、その日、その日の状況に応じて対応している。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者には生き生きと暮らしてほしい。そのために、利用者の生活歴や趣味を知り、支援していく。歌の好きな人、農作業や草取り等、屋外の仕事の好きな人等。個々の介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の気付きを月に一度のスタッフ会議で話し合い、来苑される家族に相談し、介護計画に活かしている。即実施が必要な場合には、電話で相談し、ケアに結び付けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤の職員は、その日の様子、ケアの実践を文章で記入して個別記録としている。また、スタッフ会議において、一人ひとりのケアについて話し合い、計画の見直しを活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族は入所を希望しているが、本人は宿泊する気にならず、訪問介護と通所介護を利用している方がいる。馴染んでいただきながら、泊まっていただけるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個々の取り組みではなく、全体としてボランティアグループ（紙芝居、お茶会、踊り）の訪問を頂き、支援している。消防署には避難訓練を実施していただき、文化面では市の芸術祭で、作品展示を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院受診の際、家族が対応できない場合には、介護タクシーを利用し、院内介助も行ってもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは運営推進委員のメンバーでもあり、長期的支援に向けての協働は可能である。電話による情報支援も行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所された時点で地域の病院に変わられる方もあるが、家族が希望されればそれまで掛かっていた病院を掛かり付け医として継続し、事業所の情報を提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>看護師が常勤して医療的処置を実施していく方向であればよい。そのことにより、職員も安心して取り組めると思う。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや、接し方については個人を尊重し、自尊心を傷つけることのないよう、配慮している。記録等は他者の眼に触れないように管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人から外出希望が出たら、その都度対応している。また、縫い物、編み物、作品の作成等、何種類かの趣味のことを提示し、本人が気が向いたものを選んでいただくよう支援している。何事においても自己決定を尊重している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動に関しては、本人の希望を聞き、参加したくないようなら無理に誘わない。入浴も同じく、入りたくない気分の時には無理強いしない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室のある方もいて、本人からカット、カラー等希望を出してくる。お化粧品も、衣類も職員と相談しながら楽しく選んでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や旬のものを取り入れた料理、また、月に一度利用者希望の献立の日がある。自給している野菜料理が出たら、畑で採れたものだ伝えてる。食事の準備、片付けは日課となっており、役割分担もある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間には、本人の嗜好物を提供。おやつを買いたい方には、一緒に近くのスーパーまで買い物に出かけている。タバコを吸いたい方は職員見守りのもとで喫煙している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のシグナルがある場合は随時誘導して介助をし、夜間に失禁が多い方は時間を決めて声掛けにて誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日ごとに入浴者は決めているが、その日の体調や気分に合わせて入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室であるので休息、睡眠は十分取れていると思われる。体調不良の際には無理しないよう、自室で休んでいただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	主婦業であった方には茶碗洗い等を行ってもらったり、細かい作業が得意な方には折り紙や塗り絵などをして楽しんでもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは金庫で預かっているが、外出時等は職員が同行し、それぞれ欲しい物を購入していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物等希望により、外出している。また、タバコを吸いたい方には職員同伴のもと、外で喫煙していただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ぶどう狩りなど季節ごとの行事や外食ツアーに出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用出来るようにしているが、自ら使用している方はいない。手紙に関しては葉書を頂いた利用者はいるが、こちらから出すという支援は行っていない。	○	手紙を書くということを実践していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設としては来苑者には感じ良く過ごしていただけるよう接客している。また、話の中に加わり、さり気なく話題の提供も行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを理解し、スタッフは身体拘束を行わないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は勿論、日中玄関には鍵を掛けていない。当ユニットは2階のため、転落防止を考え、外階段には施錠をしているが、内階段は出入りが自由にできる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全確認には気を配り、昼夜を通して所在や、様子を確認するケアを実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常の活動において、カッター、包丁等を使用する場面では必ず職員が一緒に行い、片づけまで確認している。現在のところは私物の持込は無い。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、行方不明は例があり、その都度スタッフは話し合いをし、繰り返すことのないよう実践に活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応についてはマニュアルがあり、見やすいところに掲示してある。また、スタッフの中で応急手当講習会を受講している。	○	応急手当講習会を受講した職員から、全職員に内容の伝達を受ける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただき、避難訓練を実施し、利用者の誘導の方法を身につけている。	○	地域の人々の協力を得られるよう交流を持ち、働きかけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に変化が見られることを報告し、対応の仕方を話し合っている。また、それ以外にも変化が見られた場合は電話で報告し、話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変に気付いた場合は朝の全体ミーティングをはじめ、朝晩のスタッフ間の引き継ぎ及び連絡ノートへ記載することにより共有されている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳(処方箋の添付、薬の変更の有無、留意点を記載)を作成し、職員皆が、目を通すようにしている。飲みにくい薬に関しては錠剤を顆粒に変更していただき、また、オブラートの使用により、服薬しやすいよう、支援に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的に便秘薬を服薬している方もいる。また、起床時の水分補給、運動、散歩の声掛けをしている。	○	散歩が難しい場合には施設内の歩行運動をするように勤める。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けをして誘導し、歯磨きを行っている。	○	歯磨きの大切さを声掛けにて教え、楽しく歯磨きができるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食摂取の少ない利用者に対してはご飯の上に副食を乗せてあげる等、摂取してもらえるように工夫をしている。水分補給に関してはできる限り飲んでもらえるように声掛けをしている。	○	入浴後の水分補給の徹底。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の研修に参加した職員が会議にて報告をし、共有、実践をしている。また、日常的にうがい、手洗い、手指消毒の施行に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前、食前の手指消毒の徹底と、調理器具の使用後の消毒を心がけ、毎日の買い物で新鮮な食材を購入するよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺にはプランターに季節の花を植え、入り口には芝生上に長いすを置き、誰でも気軽に腰を掛け、話をしたり、花を楽しむことができるようにしている。	○	建物周囲の草取り、花への水やり、花柄摘みを利用者と一緒にやっている。冬季間を除き、できる限り花を咲かせる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に季節の行事の写真などを貼り、一年の流れを感じたり、思い出話をして楽しんでいただいている。また、ホールには季節を感じられるものの飾り付けを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にも自由に過ごせる空間もあるので気の合う人同士だったり、スタッフも間に入って楽しくお話をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡や昔の写真をお部屋に飾られている利用者もおられるが、徹底していない。	○	思い出のものを持ってきていただくようご家族に働きかける。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えなどは、様子を見て玄関や窓を開けたりと気を付けている。温度にも気を配り、利用者の希望通りにその都度調整を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下やトイレは手すりを設置してあるので、普段の歩行や、リハビリなどの役に立っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の好みを尊重して、得意なことを自由に選択してもらっている。(厨房の手伝い、畑の仕事、縫い物、配膳等等)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りに花壇を作り、春には花の苗植え、草取りを行っている。芝生もあり、ベンチに座りながら見晴らしの良い景色を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

新年度より新しい職員が増えたこともあり、委員会が立ち上げられた。(レク委員会、食事検討委員会)  
 そこで様々な企画が生まれ、今まで以上に内容の濃いイベントが行われている。既存の外食ツアーは勿論のこと、  
 季節ごとの行事(流しそうめん、スイカ割り)だったり、初めての試みとなる地域の皆さんとの交流会等、バラエティーに富んだ内容となっている。